

# 避難所宿泊体験訓練を実施

～参加者約200人規模の実証実験～

## ポイント

- ・リアルな避難生活（停電、断水、仮設トイレ）を再現
- ・時間の経過とともに顕在化する課題の把握
- ・スフィア基準の主要技術4分野（栄養、WASH、シェルター、保健）の視点から、避難所の生活環境を検証

吹田市は、本市における想定最大規模の地震災害が起こり、ライフラインに大きな被害が発生した状況を再現した避難所宿泊体験訓練を実施します。

本訓練では、実際の避難生活に近い環境で、時間経過に伴い顕在化する課題の把握や、避難所の運営者や利用者などの役割分担を検証するとともに、訓練参加者の健康状態や栄養状態の変化についても観察・記録を行い、避難生活が身体に与える影響を客観的データとして把握します。

## 1 実施背景

本市では、これまで避難所の開設イメージや運営について周知を図るため、自主防災組織や協定締結機関と連携し、地域防災総合訓練で、受付、段ボールベッド、パーティション等の展示・体験などの取組を実施してきました。

しかしながら、実際の避難所は、被災者が一定期間、共同生活を継続する「応急的な居住空間」であり、時間が経過するにつれて、夜間環境、睡眠、トイレ、衛生管理、物資管理、情報共有、健康状態の維持など、さまざまな課題が顕在化します。加えて、施設管理者、地域住民、自主防災組織、行政等の関係者間における役割分担や責任範囲の認識の違いは、初動対応や避難所運営における混乱要因となり得ます。

このような状況を踏まえ、実際の避難生活に近い環境を再現した訓練を通して得た知見をもとに、スフィア基準の観点から避難所運営マニュアルや体制の見直しを行い、実効性の高い避難所運営モデルの構築につなげるものです。

## 2 実施概要

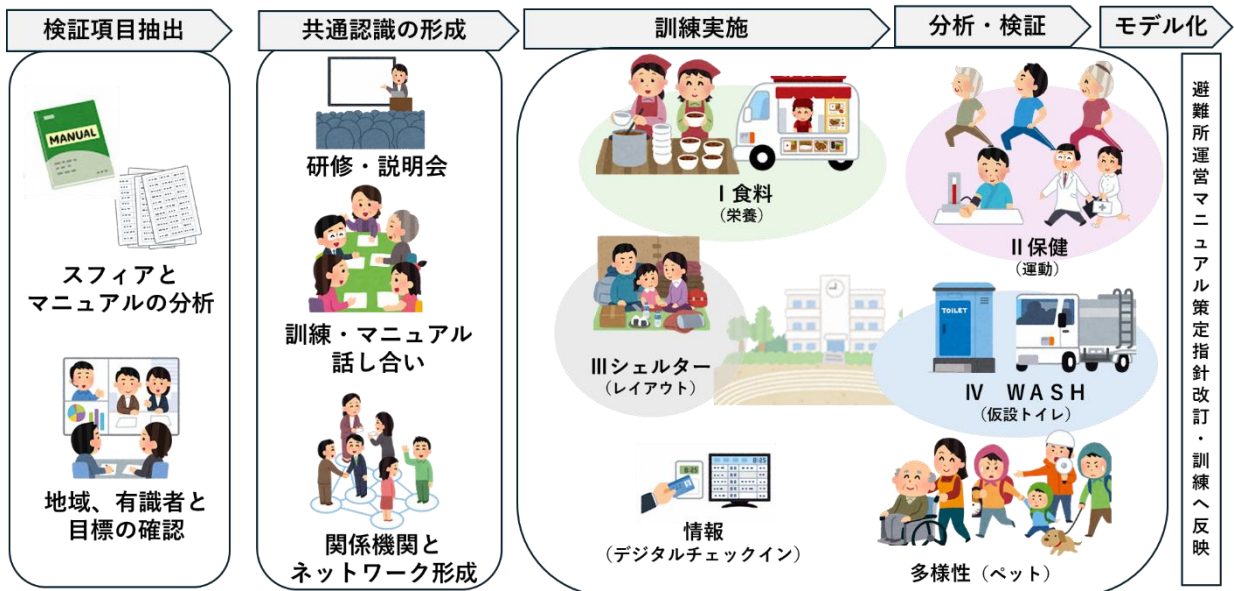
- (1) 実施日程：11月予定（1泊2日）
- (2) 訓練想定：吹田市における想定最大規模の地震災害  
ライフラインに大きな被害が発生（断水、電気が不安定な状況）
- (3) 実施内容：避難所開設、避難者受付・誘導、運営本部立ち上げ、レイアウト展開、トイレカー・携帯トイレ設置、キッチンカー・炊き出し、健康確認等

(4) 協力機関：地区自主防災組織、国立健康・栄養研究所、  
 大阪府済生会千里病院

### 3 訓練検証の主な確認事項

項目		概要
ス フ ィ ア 基 準	栄養	備蓄食、炊き出し、キッチンカー等による食事提供、物資の確認・搬出・配布手順の確認
	WASH	断水等を想定し、トイレカー・携帯トイレの設置、動線、衛生管理、清掃の運用を確認
	シェルター	夜間環境、睡眠スペース、暑さ・寒さ、照明、音、プライバシー、パーティション等の配置を確認
	保健	参加者の健康状態や栄養状態の変化を観察・記録し、避難生活が身体に与える影響を客観的に把握
役割分担		地域、行政、関係機関の役割分担と情報共有の実効性を確認

### 4 避難所の質の向上に配慮した避難所運営訓練イメージ



### 5 事業費

2,500 千円 (国の防災力強化総合交付金 ※補助率 1/2) を活用。

※5月定例会において、補正予算案件として提出予定。

問合せ先  
 総務部危機管理室 (06-6384-1753)